

# 「福祉の心」と実践的態度を育てる指導のあり方

－ 福祉教育（障害者理解）を通して －

浦添市立港川小学校教諭

棚 原 憲 一

## 目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	1
III	研究の仮説	1
IV	研究の内容と実際	2
1	福祉教育を考える	2
(1)	なぜ、福祉教育なのか	2
(2)	福祉教育とは	2
(3)	福祉の心を育てる	3
(4)	福祉教育の目標	3
2	福祉教育を進める	3
(1)	学習指導要領の方針	3
(2)	教育課程への福祉教育の位置付け	3
(3)	福祉教育の全体計画	3
(4)	学年、学級経営への位置付け	4
(5)	児童の発達段階に応じた福祉教育	4
3	福祉教育を確かめる	7
(1)	障害者理解の実態調査	7
(2)	検証授業（学級活動）	8
(3)	学級活動	13
V	研究のまとめと課題	14
	終わりに	14
	引用文献・参考文献	14

# 「福祉の心」と実践的態度を育てる指導のあり方

## － 福祉教育（障害者理解）を通して －

### 【要約】

本研究は、福祉教育を通して「福祉の心」が芽生え、気づき、考え、実践する態度を育てるため、体に障害を持つ人との交流を実施した。

その結果、「心の教育」を進めていく上で、福祉教育は有効な手立てであることを確認できた。

### キーワード

福祉教育

福祉の心

障害者理解

## I テーマ設定の理由

### 1 本校教育目標具現化の面から

本校の教育目標は(1)強い体と心を持った子。(2)すなおで心の豊かな子。(3)自主的でよく考える子の育成をめざしている。また、めざす児童像として「進んで学習し、健康で、心豊かな子ども」となっている。学校教育目標(2)すなおで心の豊かな子の育成のために何が必要であるかを考えた場合、人間として欠くことのできない「心の教育」が重視される。「心の教育」とは、人間としての思いやりの心、いたわりの心、助け合いの心等を培うことであり、それは、すなわち「福祉の心」を育てることにつながるものである。「福祉の心」を育てるには、特別活動の奉仕的行事での指導はもとより、各教科、道徳の時間での指導等、学校の教育活動全体を通して、又は関連づけて、それぞれの特質に応じておこなわれるが、とりわけ学級を単位とした指導の展開が求められる。

そこで、福祉教育（障害者理解）の実践を通して、「福祉の心」を持つ子どもの育成を図りたい。

### 2 社会的背景と児童の実態の面から

現代社会は、多様化・情報化等の急激な変化により、人間生活の在り方も大きく変わってきた。それが子どもの心に及ぼす影響は大きい。その変化からくる具体的な問題として次のようなことがあげられる。

① 都市化現象により、地域共同体としての連帯意識が希薄になり、家庭・地域の教育力の低下につながった。それは、基本的な生活習慣の欠如となっ

て表れ、けじめのない子どもが増える要因になった。

② 核家族化、少子化が進み、家庭生活の在り方が変わってきた。それは、子どもたちの勤労体験を奪う要因にもなっている。また、高齢者とのつき合いや、障害を持つ人たちとの交流の機会も減ってきた。

③ 自然体験や、生き物との触れ合いの不足が、生命への畏敬の念、思いやりの心の欠如へとつながる要因にもなっている。

④ 近年の教育問題として、早急に対応が求められる「いじめ」「不登校」の問題など「心の教育」が何よりも大切であると叫ばれている。

このように大きく変化しつつある社会の中で、物が豊かになった反面、子ども達の中に無感動、意欲のなさ、思いやりの心が薄れる等、心の豊かさが失われてきている。このような現実を踏まえ、学校においては「福祉の心」を育てる教育に重点を置き、意図的・計画的に福祉教育を行う必要があると考え、本テーマを設定した。

## II 研究の目標

「福祉の心」と実践的態度を育てるため、福祉教育の全体計画を作成し、指導方法を明らかにする。

## III 研究の仮説

福祉教育の指導方法を工夫することにより、気づき、考え、実践する力がつき、「福祉の心」を持つ子が育つであろう。

## IV 研究の内容と実際

### 1 福祉教育を考える

#### (1) なぜ、福祉教育なのか

福祉教育の必要性が求められる背景として、次のようなことが考えられる。

##### ① 高齢化社会の進展

高齢化社会が急速に進み、日本の人口のうち、やがて4人に1人は高齢者になるという。それへの対応が急務となってきた。高齢化社会の問題を自らの生活課題として認識し、その解決にあたっての判断力と実践力を身に付けることが求められる。

##### ② 障害者と共に生きる

昭和56年「安全参加と平等」をスローガンに国際障害者年が設定された。障害者も人として幸福を追求する権利を有していること、障害者を差別し、不利な状態におくことが最大の問題であること等が確認された。従来障害者に対し、偏見、排除、隔離してきただけに、障害者と共に生きる社会をつくりだしていかなければならない。

##### ③ 子どもの発達と福祉体験

今日の社会は、高度に文明化が進み物質的に豊かになった。しかし、その反面では、かつてのような人と人とのむすびつきや、心の交流が希薄になったといわれている。このような社会状況の中で、人間相互の触れ合いを深め、互いに他人の立場や心情を深く思いやり、援助し、協力し合っていく態度を育てることが必要である。

そのためにも、高齢者や障害者等の社会福祉に接する体験が重要な機会になる。

##### ④ 国際化時代における福祉

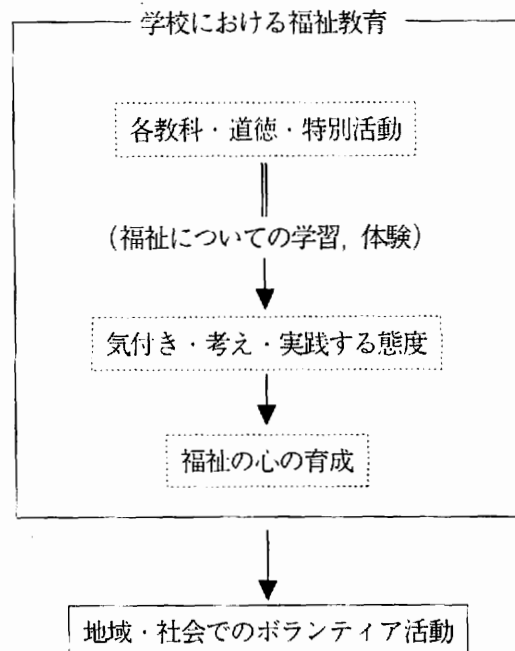
現在は飽食の時代とよばれるほど食べることに事欠くことなく、物質的な豊かさをもたらしている。しかし、世界的には、アジア、アフリカ地域では飢えや病気で苦しむ人々が多くいる。国際化時代といわれる今日、世界の恵まれない人々に関心を寄せ、世界的視野に立って客観的にみる力が求められる。

このように、社会は様々な立場や状態にある人々が、共に社会の一員として参加することにより成り立っている。よりよい社会をつくっていくためには、学校教育においては、子ども一人一人が主体的によりよく生きようとする態度を培い、互いに他の立場や心情を深く思いやり、協力し合っていく精神や態度を培っていくことが大切である。このような考えに基づいて、福祉教育は、学校の教育計画に明確に位置づけて系統的、組織的に指導を展開する必要がある。

#### (2) 福祉教育とは<sup>1)</sup>

子どもたちは、本来、いつも目を輝かせ、好奇心をもっている。その場は、学校であり、地域・社会である。自分たちの生活の場である地域には、高齢者や障害者など多様な体験を持った人々が生活している。

地域ではハンディをかかえて不自由な生活をしている場面を実際に見かけることができる。子どもたちは、地域で福祉の世界を経験する中で自分なりに課題に気付き、葛藤し、挑戦し、共感し、成就感を体験することによって心が育っていく。学校における福祉教育は、子どもたちが、地域・社会の中で福祉を体験することを支援することであり、または、その基礎・基本を培う場であるといえる。



### (3) 福祉の心を育てる

いじめ、不登校、非行等子ども間に深刻化する現象は、今日、最大の関心事である。そのいずれもが心の問題であり「心の教育」の必要性を強く感じる。

福祉教育を進めるうえでも「心の教育」は重視される。望ましい心を育てるという積極的な心を「福祉の心」ととらえ、次のように具体的に示す。

#### ① 福祉の心とは

思いやりの心、助け合いの心、生命を大切に  
する心、奉仕の心、公共心、自立心、向上心で  
ある。

#### ② 福祉の心を培うとは

子ども一人一人が主体的に、人間としてより  
よく生きようとする態度を養い、互いに他の立  
場や心情を深く思いやり、相互に援助し、協力  
し合っていく精神や態度を培うことである。学  
校における福祉教育は子ども一人一人に「福祉  
の心」の大切さを理解させるとともに、心の中  
に根付かせていくことが大切である。

### (4) 福祉教育の目標

学校において進める場合、福祉教育の具体的な  
目標として、次の三つが考えられる。

#### ① 心の育成

人との関わりや自然との関わりを通して、思  
いやりの心、生命を大切に  
する心、自立心等福祉  
の心を育てる。

#### ② 福祉の理解

福祉の問題について学び、体験し、福祉に対  
する関心を深め、その意義や役割について理解  
を深める。この場合、「何かをしてあげる」「助  
けてあげる」といった高い視点からではなく、  
社会にはいろいろな立場、いろいろな人達がい  
て、共に生きていること、共に支えあって生き  
ていることを知る事が大切である。

#### ③ 実践的意欲、態度の育成

福祉についての学習を通して、気づき、考え  
理解を深めることによって、福祉の心を培い、  
実践的意欲、態度を養う。

## 2 福祉教育を進める

### (1) 学習指導要領の方針

教育課程編成上の基準である現行の学習指導要  
領の基本方針として次の四点をあげている。

① 豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育  
成を図ること。

② 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応で  
きる能力の育成を重視すること。

③ 国民として必要とされる、基礎的・基本的な  
内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図  
ること。

④ 国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重  
する態度の育成を重視すること。

これらの「方針」は、学校における福祉教育を  
進めていくうえで基盤となるものである。また、  
学校や地域の実態を考慮し、創意工夫すること  
が大切なことになる。

### (2) 教育課程への福祉教育の位置付け

福祉教育は、学校における全ての教育課程と全  
ての教育活動を通して行なわれるものである。小  
学校の教育課程は「教科」「道徳」「特別活動」に  
より編成することになっている。この三つの領域  
全てに福祉教育は関わってくるのである。福祉教  
育を学校教育に位置付けるためには以下の3点が  
重要となる。

① 福祉教育の目標と内容を学校の教育目標、指  
導計画のなかに適切に位置付ける。

② 子どもたちの発達段階と実態に即した教育を  
推進する。

③ 家庭及び地域と連携し協力するなかで、計画  
し実施する。

### (3) 福祉教育の全体計画

福祉教育は、学校の教育活動全体を通して、又  
は関連づけて行なわれるものであり、意図的・計  
画的に指導することが必要となる。指導の基にな  
る全体計画を次のように作成する。

① 学校の教育目標との関連を図りながら、福祉  
の心の育成に重点を置いた福祉教育の目標を設  
定する。

② 福祉教育の目標を具体化して低・中・高学年

の重点を設定する。

- ③ 各教科、道徳、特別活動の取り組みの視点を示す。

次に、全体計画に基づいて行なわれる指導が、児童の発達に即し、意図的・計画的に行なわれるためには、あらかじめ組織された全学年にわたる一年間の指導計画が作成される。これにより、具体的に年間指導計画を明らかにすることが必要である。

これは、全教師の参加・協力により作成されなければならない。

- (4) 学年、学級経営への位置付け

福祉教育を各教科、領域に位置付けるということは、福祉教育の目標・方針を学年経営や学級経営のなかに位置付けなければならない。学級の中にも、母子家庭、父子家庭の子どもや、生活保護を受けている家庭もある。クラスの中にも福祉の問題をかかえている子どもがいる。この子どもたちもきちんと受け止め大事にする、ということで福祉教育の位置付けが必要である。

- (5) 児童の発達段階に応じた福祉教育<sup>12)</sup>

福祉への関心を高め、福祉の心を耕し、自主的・積極的な取り組みを構想する上で、子どもの発達段階に配慮することがまず前提になる。その上で、発達の個人差に注意して一人一人の子どもについてできるだけ多面的に理解しなければならない。小学校児童は、おおよそ他律から自立へ、結果重視の見方から動機重視の見方へ、主観的・一面的な見方から客観的・多面的な見方ができるように社会生活の積み重ねと適切な指導・学習によって発達を促すことが可能だとされてきた。したがって、このような児童の発達の特質に応じた、効果的な指導が行なわれるようにしたい。

- ① 低学年

この時期は、幼時期の自己中心性がかなり残っているため、他人の立場を十分に理解して行動することが難しい。善悪の判断は、特に保護者や教師の判断に依存する傾向が強く、行為の動機や周囲の事情に関係なく、大人の言うことや規則にさえ合っていればよい行動である、とい

う形式的な判断をする。具体的な思考をする段階であるので日常の経験や活動の中で具体的な場面を通して指導することが多くなる。そこで、友達と仲良くし助け合おうとする態度や親・教師などを尊敬する心などをふくらませて、感性豊かに「福祉の心の芽生え」を育てることが大切になる。

- ② 中学年

この時期の児童は、運動能力や知的能力の発達とともに、社会的な活動能力も広くなり、地域の施設や行事などに興味を示し、自然等への親しみも増してくる。知的能力の中でも、とくに、問題解決能力の発達にともない学習活動に興味を増し、積極的に取り組むようになる。計画的に努力する構えも見せ始め、自分の行動と他人の行動とを相互に見るようになり、自分の行為の善悪についても反省することができるようになる。

そこで、低学年で培われた「福祉の心への芽生え」の上に、人間尊重の精神を相互扶助や連帯感にまで高め、集団として「福祉実践の素地」を培って行くことが大切になる。

- ③ 高学年

行為の結果のみを重視しがちだった児童も、しだいに行為の動機をも考慮できるようになる。それは、相手の身になって人の心を思いやる共感能力の発達を示している。読書を通して人の行為や伝記、偉人伝などに共感し、自らも努力しようとする傾向もみられてくる。

集団生活においては、自分の役割や責任などについての自覚がより明確になり、責任感、誠実、協力、親切などを重んじるようになる。

このような発達の特質を踏まえて、民主的な社会を維持し発展させるための資質を養成すべく、「福祉実践への積極性」を育てるようにしたい。

# 福祉教育の全体計画（試案）



各教科・道徳・特別活動における取り組みの視点<sup>(3)</sup>

		取 り 組 み の 視 点
教 科	国 語	・物語文や伝記、伝説等の読み取りを通して、人間としての生き方、心の触れ合い等に共感感動し、表現活動を通して福祉の心を養う。 ・高齢者・障害をもつ人々へ手紙を書くことにより、その心情を養う。
	社 会	・福祉のしくみについて理解をすすめ、社会福祉施設の見学等により、理解を深める。 ・家庭・社会の学習を通し、福祉の心を養う。
	算 数	・統計・資料等の福祉にかかわる資料を取り上げての考察、調査等の集計から福祉についての理解、関心を深める。
	理 科	・生命の大切さ、生きることの意味仕組みの理解から、また小動物の飼育、植物の栽培から愛護の心の育成を図る。
	生 活	・具体的な活動や経験を通し、身近な社会や自然とのかかわりに関心を持たせ、自分自身や自分の生活について考えさせることから、福祉に視点をあてる。
	音 楽	・豊かな情操を養うなかで福祉の心を養う。
	図 工	・表現の喜びを味わわせ、豊かな情操を養うなかで福祉の心を育てる。
	家 庭	・家庭生活に対する理解を深め、家庭の一員としての自覚を深めるなかで、福祉の心を育てる。
	体 育	・体力の向上、健康の増進を図り、明るく楽しい生活を営む態度を育てるなかで、福祉の心を養う。
道 徳	・社会生活における人と人との関係、生き方とその態度から思いやり、いたわりの心を育て、福祉の心を養う。	
特 別 活 動	学級活動	・健全な生活態度の育成、望ましい人間関係の育成のなかで福祉の心を養う。
	児童会活動	・福祉にかかわる活動を位置付け、協力して実践活動を進めるなかで福祉の心を養う。
	クラブ活動	・同好の集団の中で好ましい人間関係を育み、活動を通して福祉の心を養う。
	学校行事	・勤労生産、奉仕的行事のなかで社会奉仕の精神をかん養する体験が得られるような活動を通して福祉の心を養う。

(全国社会福祉協議会編「学校における福祉教育ハンドブック」)



### 3 福祉教育を確かめる

#### (1) 障害者理解の実態調査

○調査目的：検証授業を進めるにあたって、児童が障害を持つ人に対してどう思っているのかを事前に把握する。

○調査対象：港川小学校5年2組  
男子17人、女子17人、計34人

○調査月日：平成8年11月12日

○調査内容及び結果と考察

① あなたの身近に、体や手足の不自由な人がいますか。(人)

選択肢	男子	女子	計
いる	0	6	6
いない	17	11	28

・身近に、と言うのは家族又は隣近所に、ということであり女子は6人と答えているが男子は0人である。子ども達の身近に障害を持つ人は少ないことがわかる。

② あなたは今までに、体や手足の不自由な人に会ったことがありますか。(人)

選択肢	男子	女子	計
ある	11	15	26
ない	6	2	8

・今までに、と言うのは学校以外での地域、社会で、ということである。子ども達も高学年になると、活動の場が家庭や学校だけでなく、行動の範囲が広がり、その結果として、障害を持つ人との出会いも増えてくると思われる。

③ 「ある」と答えた人にたずねます。そのときあなたは、どう思いましたか。(複数回答)(人)

選択肢	男子	女子	計
かわいそうだった	9	11	20
助けてあげたいと思った	2	8	10
こわかった	1	0	1
何も思わなかった	5	1	6

・障害者に対する関心の度合いを表わしている。「かわいそうだ」という相手を思いやる気持ちは男子9人、女子11人となっており過半数を示している。「助けてあげたいと思った」は、女子の方が男子よりも多くなっている。また、「何も思わなかった」も6人いることがわかる。

④ もう一度「ある」と答えた人にたずねます。そのときあなたは、どう思いましたか。(複数回答)(人)

選択肢	男子	女子	計
あいさつをした	1	8	9
話しかけた	2	4	6
世話をした	1	0	1
黙って通り過ぎた	8	3	11
わらった	2	0	2
からかった	2	0	2
ただ見ていた	0	1	1

・障害のある人に出会うと、何となく自分との違いを比較して考えたり、どちらかという避けようとする傾向にある中で「あいさつをした」、「話しかけた」が15人いる。これは、相手を思いやり具体的に行動(表現)をしたのである。「黙って通り過ぎた」は全体で11人いる。これは、気持ちはあるがしかし、何もしてやれないという実践する態度が日常化していないのではないかと思う。また、「わらった」2人、「からかった」2人いる。このことから、学校において意図的に障害を持つ人との交流の場を設け、福祉の心や実践する態度を育てる必要がある。

(2) 検証授業（学級活動）

平成 8 年 12 月 5 日（木）3 校時

5 年 2 組 男子 17 名 女子 17 名

① 題材名 「祈り」（望ましい人間関係）

② 題材設定の理由

私たちの社会には、生まれたばかりの乳児から、高齢者までいろいろな人達が一緒に生活している。その中には、健康な人もいれば、心身に障害を持つ人もいる。本題材「祈り」は、障害者である新門登人氏の詩集「夢のプロローグ」の一遍である。同氏は現在、進行性筋ジストロフィーという原因も治療法もわからない難病の身でありながら、油絵を描き、詩を書き、パソコンをやり、音楽を愛し、対外的には、自立生活支援センター「テベの会」の代表者であり、障害者の「はばたけ美術協会」の会長も務めていた。「電動車椅子で動きまわられる今を第一の人生とし、寝たきりになったら、第二の人生が送れるように、今からその準備をしている」と、言う同氏は、多忙な中にありながら、今を精一杯生きている。詩「祈り」の中にもそれが表わされている。そこで、今回、新門登氏を招いて交流することにより、障害者の考えがわかり、自分達はどうすればいいのかを気づき、思いやりの気持ちが育ち、実践する態度が育つであろうと考え、本題材を設定した。

③ 学級の実態

・本校では、年に一回、福祉講演会を全校児童を対象に実施している。児童一人一人が直接ふれ合うことはできないが、講話を聞くことによって、障害者に対する理解という面で、一定の成果を納めている。

・障害者理解アンケートの結果からは、女子は、「かわいそうだ」11人、「助けてあげたい」8人であり、障害者に対する思いは感じられる。また、どうしたかでは「あいさつをした」8人、「話しかけた」4人である。一方男子は、「かわいそうだ」9人、「助けてあげたい」2人と、思いのわりに実際の行動としては、「だまって通り過ぎた」8人、「笑った」2人、「からかった」2人である。④ 本時のねらい

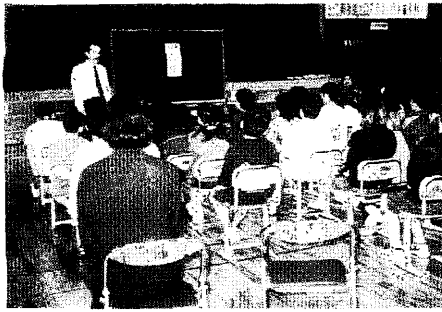
・障害をもつ人への理解を深め、思いやりの気持ちを育てる。

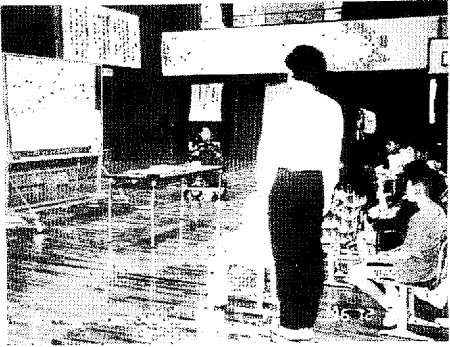

・自分の日頃の生活態度を振り返り、精一杯努力する心を培う。





⑤ 授業仮説

体に障害をもちながら、精一杯生きている新門さんへの姿にふれさせることにより、障害をもつ人たちへの理解が深まり、思いやりの気持ちが育ち、自らも精一杯努力しようとする心が育つであろう。

⑥ 指導の実際

活 動 内 容	教師の働きかけと児童の反応	留 意 点
<p>1 新門さんを紹介する。</p>  <p>「新門さんはどういう人だろう」</p>	<p>T 新門さんは、何をしている人だと思えますか。</p> <p>C 体が不自由である。</p> <p>C 車椅子に乗っている。</p> <p>C 家でのんびりしている。</p> <p>C 絵を描く人である。</p> <p>C 何もしていない。</p>	<p>・最初は名前だけを紹介する。</p> <p>・初対面の印象を自由に発表させる。</p>

活 動 内 容	教師の働きかけと児童の反応	留 意 点
<p>2 新門さんが書いた詩「祈り」を提示し、教師が気持ちを込めて音読する。</p>  <p>「今新たに祈りはじめた……」</p>  <p>「精一杯生きるって何だろう」</p>	<p>T 新門さんは詩を書いているひとです。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">祈 り</p> <p style="text-align: right;">新 門 登 作</p> <p>幼い頃よく神様に祈りました 早くこの足治ればいいのになあと どうして今は祈らないのだろう あんなに歩きたかったのに でもいま新たに祈りはじめた</p> <p>今度は精一ぱい生きてやろうと</p> <p>何人もの大切な友が この病に侵されながらも頑張ったのに 天国へ行ってしまった だから友のぶんまで精一ぱい生きている ぼくにはこれくらいのことしか出来ないから</p> <p>幼い頃よく神様に祈りました 早くこの足治ればいいのになあと どうして今は祈らないのだろう あんなに歩きたかったのに でもいま新たに祈り始めた</p> <p>今度は精一ぱい生きてやろうと</p> <p>今度は精一ぱい生きてやろうと</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩を提示する。</li> <li>・新門さんは詩集を出版していることを話す。</li> </ul>
<p>3 全文を各自で黙読して内容を理解する。</p>	<p>T 心の中で読んでみましょう。</p> <p>C 黙読をする。</p>	

活 動 内 容	教師の働きかけと児童の反応	留 意 点
<p>4 話し合いをする。</p>  <p>「一生懸命頑張ることです」</p>	<p>T 初めに何を神様に祈りましたか。 C 早く足を治したい</p> <p>T どうして今は、いのらないのでしょうか。 C 新たな祈りが出来たから。 C 精一杯生きようと思ったから。</p> <p>T 精一杯生きるとは、どういうことですか。 C 一生懸命頑張ること。 C 友達の分まで生きること。 C 自分のやりたいことをすること。</p>	<p>・詩の内容を十分に理解する。</p>
<p>5 新門さんの話を聞く</p>  <p>「目標を持って頑張ってほしい」</p>	<p>T 新門さんはどんな気持ちで詩を書いのでしょうか。お話をしてもらいましょう。</p>	<p>・今までのこと、現在の生活、これからやりたいことなど自身の生き方について話をしてもらおう。</p>
<p>6 新門さんに質問をする。</p> <p>7 感想を書く。</p> <p>8 新門さんと交流をする。</p>	<p>T 新門さんに尋ねたいことはありませんか。 T 今日の学習を終えて、分かったこと感じたこと、これから努力したいことを書きましょう。</p>	<p>・新門さんと話をしたり、又は、お礼を言う場を設ける。</p>
 <p>「新門さん有難うございました」</p>	 <p>「握手をしてもいいですか」</p>	

児童の感想文

学級活動「祈り」 名前( )

\*今日の学習の感想を書こう。

1 新門さんはどんな人でしたか。  
(わかったこと、気がついたこと、感じたことを書きましょう。)

新門さんは、しょうがいをもっているけれども、  
人生を精一杯は自分がやりたいこととして生きて  
いるという人じゃないかなと思いました。  
絵や詩をいっしょうけんめいに書いて、人の分ま  
て生きるということは、一番いい生き方なんだと  
わかりました。しょうがいをもっている人でも、や  
れはできんだなとかんしんしました。

2 これから自分が精一杯い努力したいこと。(こんなことがしたい)を  
書きましょう。

私は、今自分がやりたいことを見つけて、それを  
新門さんのように、けんめいにとりこんで、生  
かしていきたいと思いました。また、しょうがい  
をもっている人に、あたら、おきつたいをして、人  
のことに役立って、精一杯生きていであ

学級活動「祈り」 名前( )

\*今日の学習の感想を書こう。

1 新門さんはどんな人でしたか。  
(わかったこと、気がついたこと、感じたことを書きましょう。)

新門さんの話を聞いて、(ぼくは)心の強い人だと思いました。  
足が動けなくてもいっしょうけんめいこまていきてきたし、詩や絵  
をかいている時、こういうことを聞くことが、しょうがいのほ  
うが生きることとあらわしてると思いました。(ぼくは)ちゅうと  
はんは、できなくていいと思て、なげたしまが、新門さんの  
1年かかって作った絵を見て、とりよくがんばっていると思は  
新門さん、これからがんばって下さい。

2 これから自分が精一杯い努力したいこと。(こんなことがしたい)を  
書きましょう。

これからは何でもチャレンジしたいです。

⑦ 評価と考察

児童の感想文をもとに、三つの観点で評価した結果、次のようになった。

(男子17人 女子17人 計34人)

評価の観点	男子	女子	計
① 障害を持つ人への関心・理解は深まったか	16	17	33
② 思いやりの心、実践的態度は育ったか	8	12	20
③ よりよく生きようとする態度は育ったか	16	14	30

また、観点ごとに次のように考察する。

① 障害を持つ人への関心や理解は深まったか

感想文中の児童の表現例

- ・手足の不自由な人が詩を書くのはとてもかわいそうだと思った。
- ・自分の足で歩いたことがないのはかわいそうだと思う。
- ・足が動かなくても一生懸命こまてきた。
- ・新門さんは、足は使えないけどいろいろなことに精一杯頑張っていることがわかった。
- ・小さい頃から病気で歩けないけど、夢をもっている頑張り屋さんだなと思った。
- ・新門さんは家でのおんびりしている人だと思った。でも、話を聞いて涙が出そうだった。やさしい詩を書く人だと思った。

障害を持つ人との交流を通して、相手を理解できたかという場合、相手の立場がわかり、生活するうえで大変だろうな、苦勞しているだろうなあと、結果として「苦勞」に同情することになる。感想文の中で「手足の不自由な人が詩を書くのはとてもかわいそうだ」「自分の足で歩いたことがないのはかわいそうだ」というのは、字を書きたいのに思うように手が動かない、足で歩きたいのに足が動かない。だから、かわいそうなのである。この場合自分と比較することによって、相手の立場を理解できたのであり、ほとんどの児童が関心や理解が深まったものと思う。

児童の感想文

学級活動「祈り」 名前( )

\*今日の学習の感想を書こう。

1 新門さんはどんな人でしたか。  
(わかったこと、気がついたこと、感じたことを書きましょう。)

新門さんは、足が不自由だけれど、精一は「お姉さん」の分まで生きている人。すてきな絵や詩を書いている人だとわかりました。  
足が不自由でも、何事にもがんばっているような感じでした。

2 これから自分が精一ばい努力したいこと。(こんなことがしたい)を書きましょう。

これから私は、人がこまっていたりしたら目かけてあげるように努力したいと思います。  
新門さんみたいに何事にも努力したいと思います。

学級活動「祈り」 名前( )

\*今日の学習の感想を書こう。

1 新門さんはどんな人でしたか。  
(わかったこと、気がついたこと、感じたことを書きましょう。)

新門さんの話をきいて、「新門さんは、おぼろげながらも、絵をかいたり詩をついたりして、本当に精一は、生きていくんだなあ」と思いました。  
これから私は、私も「できないからやらない」というようなかんがえはしないで、「できないからかいはろう」と思うように、心がけたいなと思いました。

2 これから自分が精一ばい努力したいこと。(こんなことがしたい)を書きましょう。

自分がいままで、できなかったことを、いっしょうけんめい、とくして、できるようにしたい。もし、できなかったとしても、みんなにやくたうことばいしたい。

② 思いやりの心、実践的態度は育ったか

感想文中の児童の表現例

- ・体の不自由な人に親切にしてあげたい。
- ・困っている人がいたら助けてあげるように努力したい。
- ・みんなの役立つことがしたい。
- ・障害のある人を助けてあげるやさしい人になりたい。
- ・新門さんは長生きしてほしい。

感想文中で「体の不自由な人に親切にしてあげたい」「困っている人がいたら助けたい」「みんなの役立つことがしたい」というのは、障害を持つ人に理解を示し、自分が手助けをしたいという相手を思いやる気持ちや実践する態度、意欲が出てきたものと言える。

③ よりよく生きようとする態度が育ったか

感想文中の児童の表現例

- ・新門さんは、とてもすごい人、心の強い人である。
- ・自分も勉強やスポーツに努力したい。
- ・ぼくは丈夫な体を持っているので、精一杯頑張りたい。
- ・新門さんのように詩を書きたい。
- ・いろんなことにチャレンジしたい。
- ・わたしは親を大事にしたい。
- ・自分の目標を持って頑張りたい。
- ・新門さんのように、自分のやりたいことを目指して生きる人になりたい。

新門さんは障害を持っている。でも、それにも負けず精一杯頑張っている。だから、「とてもすごい人」「心の強い人」である。ここでは、障害者としてでなく「人間の生き方」をみていることになる。感想文中で「障害者であっても努力すればできる」というところから自分自身を見つめて「ぼくは丈夫な体を持っている、精一杯頑張りたい」「新門さんを見習いたい」「自分も努力したい」となる。これは一人の人間としてよりよく生きようとする態度が育っているものと考えられる。

(3) 学級活動

平成 8 年 12 月 20 日

児童の手紙文

題材名「新門さんへ手紙を書こう」

浦添市立 港川小学校 5年2組 名前( )

① 活動のねらい

- ・新門さんとの出会いを通して、気付いたこと、考えたこと、実践したいことを手紙に書くことができる。

② 活動の流れ

活動内容	児童の活動
1 前時で書いた感想文を発表させる。	・感想文を発表する。
2 感想文の中からキーワードを選び考えさせる。 「かわいそうな人」 「すごい人」 「精一杯生きている」	・「かわいそうな人」「すごい人」とはどのようなことなのか考えて発表する。
3 民間放送で、放映された「新門さんのことを紹介した」ビデオを見せる。 内容 ・生い立ちについて ・現在の生活の様子 ・絵を描いている様子	・新門さんの普段の生活の様子がわかる。 ・ボランティアの仲間を支えられていることがわかる。 ・精一杯絵に打ち込む姿がわかる。
4 新門さんへ手紙を書かせる。	・気づいたこと、考えたこと、実践したいことを手紙に書く。

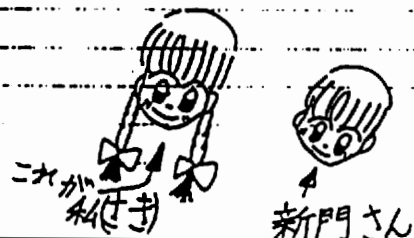
③ 結果と考察

前時で新門さんとの出会いを通して、障害を持ちながら「精一杯生きる姿」に直に触れることができた。本時では、新門さんのことを紹介したビデオを見せることにより、普段の生活の様子や、絵に打ち込む姿など、新門さんの他の面を見ることができた。その結果、児童の手紙文から新門さんは「心の豊かな人だ」、「いろんなことを精一杯頑張っている」と、更に理解が深まった。また、「私も精一杯頑張っていきたい」と自らもよくしていきたいという気持ちを持ち、さらに「新門さんも頑張ってください」と、新門さんを思いやる気持ちを手紙を通して伝えることができた。

新門さんへ  
 私は新門登さんは、心豊かな人だと思えます。それは、お絵かきを書いたり、詩を書いたりしているからだと思います。  
 歩いたり、走ったりできないけど、今まで、新しいつづけてきたことを思い出しながら、しょうけんわい生きていて下さいね。私はもし、ごましている人がいたら、たすけてあげると、やさしい気持ちももちたいと思えます。また、私もいろいろなことにチャレンジしたのしくい、しょうけんわい生きていきます。新門さんも、がんばってください。もうね、  
 がんばれ新門登さん!!  
 りん!!

浦添市立 港川小学校 5年2組 名前( )

新門さんへ  
 新門さんお元気ですか? 12月5日にいっしょに勉強した港川小学校の五年二組の島田紗希です。  
 私は新門さんの話を聞いて、足がつかえなけれど、いろいろなことを精一杯がんばっていることがわかりました。また、私も新門さんみたいにいろいろなことを精一杯がんばっていきたくです。そして、足が不自由な人や手が不自由の人を見かけたら、助けてあげたいです。これからおどおどと長生きをして、絵をおどと続けてください!!



## V 研究のまとめと課題

現代社会は、核家族化、高齢化が進み、さらに、多様化、情報化等の変化により、人間生活の在り方が大きく変わってきた。みんなが「共に」幸せに生き、「喜び」を共有することのできる社会づくりのために、人間としての思いやりの心、公共心などの涵養が求められる中で、福祉教育に対する期待が寄せられている。

また、学校において福祉教育に取り組むためにはまず、教師が福祉教育についての認識を深め、一人一人の子どもの心をつかみ、その実態に合った取り組みをしていかなければならない。

このことから、本研究は、「福祉教育の理解」、「福祉教育の推進」、「福祉教育の実践」の三つの柱を立てて進めてきた。

研究を通して次のことが確かめられた。

- 1 福祉教育において「福祉の心」を培うということは、「子ども一人一人が主体的に、人間としてよりよく生きようとする態度を養い、互いに他の立場や心情を深く思いやり、相互に援助し協力し合っていく精神や態度を培う」ことである。  
これは、学校教育目標の具現化のためには、不可欠な要素である。
- 2 福祉教育の全体計画は、福祉教育を進めていくうえで基になるものであり、福祉目標を中心に他の教育活動との関連を図ることにより全体的な体系が見

えてきた。

- 3 障害者との交流をもつことにより、気付き、考え、実践する態度が育ち、福祉の心を培うことが出来た。  
また、課題として次のことがあげられる。
- 1 各教科、領域における福祉教育の年間計画を作成するには、児童の発達段階に応じた指導展開と、幼・小・中の系統性を考慮した指導展開の研究・開発が必要である。
- 2 福祉教育は「人との関わり」「自然との関わり」など、具体的な体験を通して学ぶものである。そのためには、時間、場所、安全面等活動するうえでの創意工夫を図らなければならない。

終わりに

研究所での6ヶ月を終えようとしている今、入所式のこと鮮明によみがえってきます。期待と不安のなかでのスタートでした。しかし、研究員の先生方のおかげでいつも、良い笑顔で、良い姿勢で取り組むことが出来ました。入所当初の目標も何とか達成できたのではないかと考えています。研究期間中指導して下さいました研究所の田中一郎所長はじめ職員の皆様には感謝申し上げます。また、研究の機会を与えてくださった教育委員会の先生方に厚くお礼を申し上げます。有難うございました。

## 引用文献・参考文献

- 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 (1996) 学校における福祉教育ハンドブック <sup>(1)</sup>5-6, <sup>(2)</sup>17-18, <sup>(3)</sup>41  
東京都
- 社会福祉法人 浦添市社会福祉協議会 (1991) これからの福祉教育 浦添市
- 社会福祉法人 浦添市社会福祉協議会 (1993) 福祉教育の手引書 (小学校編) 浦添市
- 新門 登 (1992) 詩集夢のプロローグ -筋ジスと共に生まれ19年間の闘病生活に生きる-  
彦根市立教育研究所 平成6年度 研究紀要  
彦根市立教育研究所 平成7年度 研究紀要
- 文部省 平成元年 小学校指導書 教育課程一般編
- 巡 静一 (1986) 青少年問題とボランティア活動 日常出版株式会社 東京都
- 大橋 謙策 (1986) 地域福祉の展開と福祉教育 全国社会福祉協議会 東京都
- 津曲 裕次 (1988) 障害者の教育と福祉入門 川島書店 東京都
- 花村 春樹 等 (1990) 大学生と市民のための社会福祉講座 ④障害福祉 中央法規出版株式会社 東京都